

地理 A

1 生徒自らが作成した「WEB ページ」を活用した授業展開例

< 主題 > 「土岐プラズマ・リサーチパーク」< 地域素材 > のグループ発表

< 解説 > 「土岐プラズマ・リサーチパーク」事業は平成 10 年に本格的に着工され、同時に本校をとりまく環境が随分変わってきた。今後、同事業が周辺に与える影響がどのような形になっていくのかを予測することは難しいが、このような状況を通じて、都市計画や地域開発などへの理解も視野に入れて、小・中学校で養われた地域調査の力とあわせて、自分の居住地域の再発見ができるような視点を養いたい。

2 地域素材の教材化に配慮した授業展開例

< 主題 > 新エネルギー「核融合発電」の開発

< 解説 > 新教育課程の指導要領では、「地域性を踏まえて」という言葉が繰り返し出てくる。本校が位置する土岐市は「東濃研究学園都市」のコアゾーンとしての役割が期待されており、「土岐プラズマ・リサーチパーク」・「日本無重量総合研究所」・「核燃料サイクル開発機構 東濃地科学センター」・「核融合科学研究所」など、各分野の世界的水準の研究施設が整っている。この単元では本校に隣接する「核融合科学研究所」を取り上げて、「資源をめぐる問題」を考察することにした。

3 プレゼンテーションソフトを活用した授業展開例

< 主題 > 多くの地球的課題

< 解説 > この単元では「一人一人が生かされる学習指導の工夫」をテーマに生徒自ら課題を追究し、主体的に学習に取り組む課題解決型学習を取り入れた。従来の授業形態に加えて、探求的な学習を通じて見方や考え方を育成するため、生徒一人一人が興味・関心をもっている「地球的課題」を取り上げ、「プレゼンテーション」を課した。

4 ディベートを重視し、実践力を養う授業展開例

< 主題 > 地球的課題と南北問題

< 解説 > 情報を相手に伝えるだけでなく、自分が追及した課題を再確認し、解決策を考察し、地球的課題の解決に向けての実践力を養うため、「地球環境をめぐる南北の対立」という論題でディベートを実施した。同時に、異なる考えや立場があることを意識し、他者理解と自己理解を深め、様々な角度から論理的に思考し、判断することの大切さを理解させることも目的とした。